

H25 シカ年度 個体数モニタリング事業結果

1. ヘリコプターカウント調査（環境省事業）

- ・遺産地域の標高 300m 以下全域（図 1-4-2）においてシカのヘリコプターカウント調査を 2014 年 3 月 2～4 日に実施。計 199 群 935 頭を発見。
- ・知床岬仕切柵内（台地上草原）の航空カウント調査を 3 月 3 日午後を実施し、計 4 群 59 頭を確認（図 1-4-3）。写真を分析した結果、斜里側の 3 群はオス成獣が多く（73.0 %）、羅臼（赤岩）側の 1 群はメス成獣の割合が高かった（63.6%）。

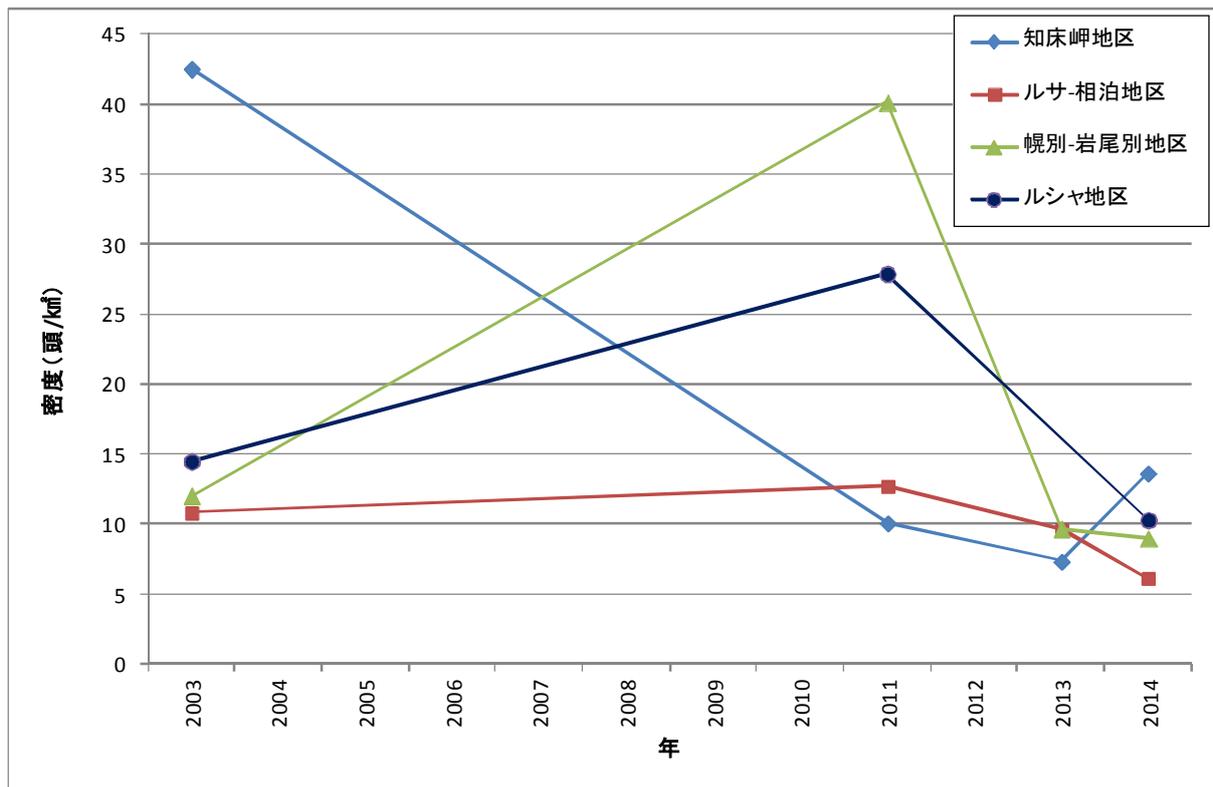


図 1-4-1. 各地区（広義）におけるヘリカウント調査による発見密度の変化

知床岬地区：U1 + U11

ルサー相泊地区：U12 + U13

幌別-岩尾別地区：U4 + U5 + U6

ルシヤ地区：U2 + U3

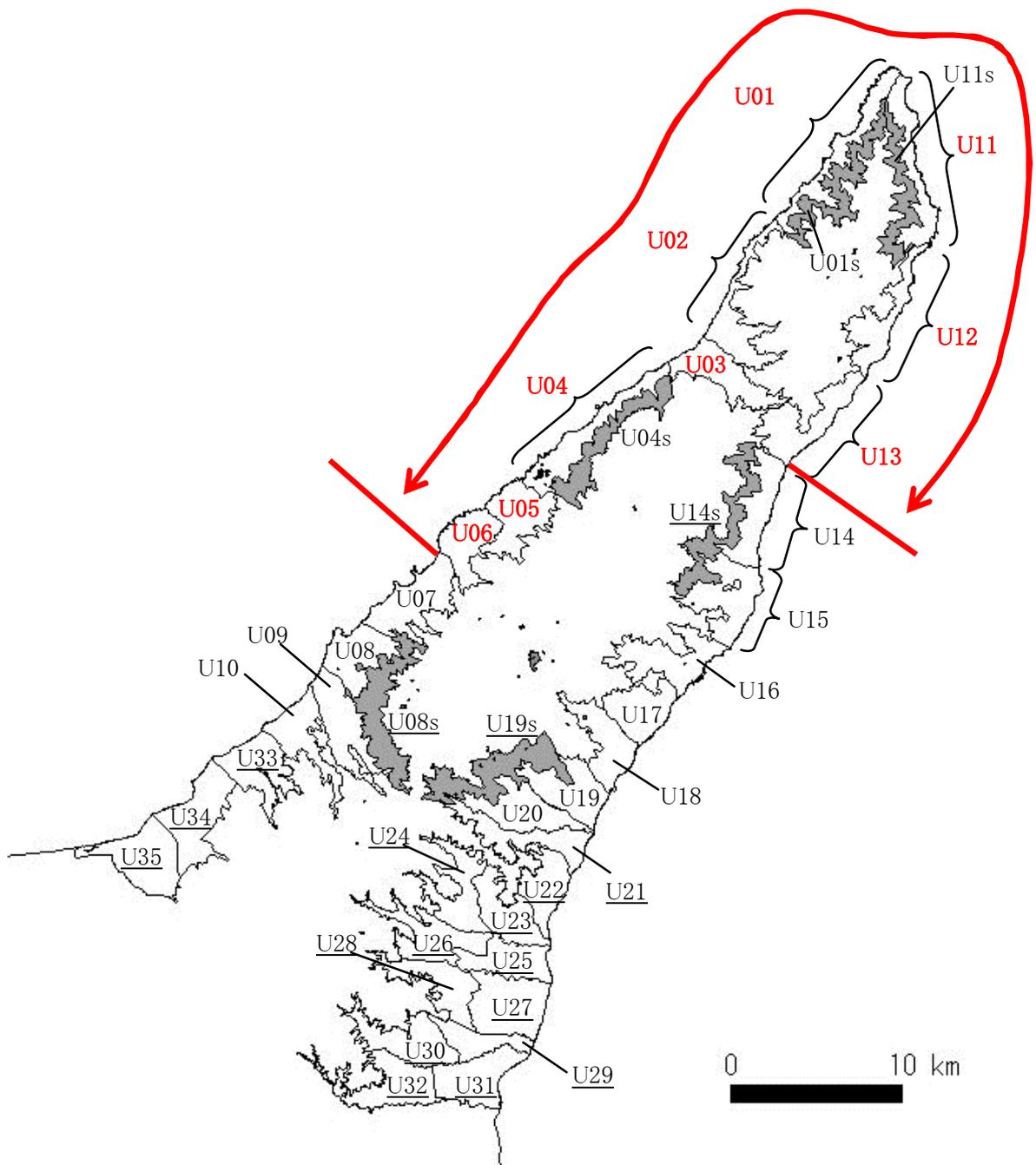


図 1-4-2. 知床半島におけるエゾシカヘリコプターカウント調査の既定調査区

赤太字が 2014 年の調査実施区（知床半島の海岸沿いの先端寄り約半分）

※2011 年に設定した 41 ユニットの内の 9 ユニット（遺産地域全域）

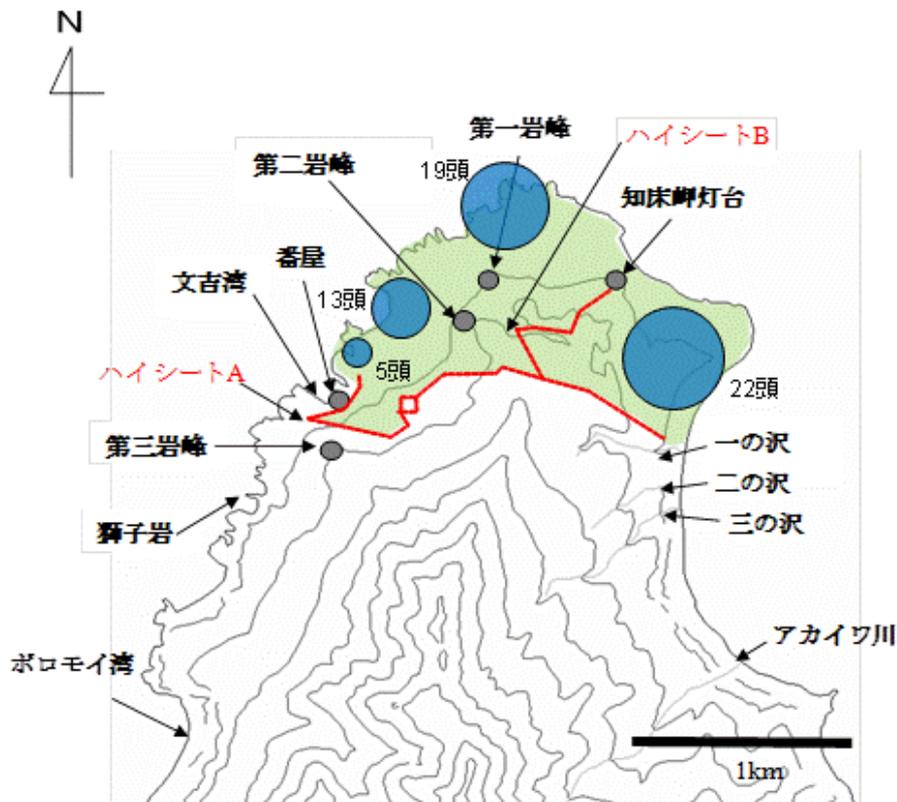


図 1-4-3. 知床岬先端部におけるエゾシカの分布 (2014 年 3 月 3 日, 14:35~50)
青丸がシカの発見位置、赤線は仕切り柵

<知床岬地区>

- ・発見頭数は 279 頭 で、前年 (2013 年) より 86%増加。
- ・知床岬先端部の台地上草原 (仕切り柵内) では 59 頭 (3 月 2 日の簡易な調査で 76 頭) を確認。
その後 9 頭が捕獲されたため、越冬期の生息頭数は、単純計算で残り 50~67 頭。

<ルサー相泊地区>

- ・発見頭数 137 頭 で、前年 (2013 年) から 36%減少。

<幌別-岩尾別地区>

- ・発見頭数は 292 頭 で、前年 (2013 年) から 7%減少。

<ルシャ地区>

- ・発見頭数は 227 頭 で、前回調査時 (2011 年) から 63%減少。

表 1-4-1. 2014 年調査結果と過去の調査結果（2013 年, 2011 年）との比較

調査区	面積 (km ²)	2014年調査				2013年調査		2011年調査	
		発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)	2013年比		発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)	発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)
U-01	10.39	130	12.51	+41	146%	89	8.57	91	8.76
U-11	10.09	149	14.77	+88	244%	61	6.05	115	11.4
知床岬地区 (広義) 計	20.48	279	13.62	+129	186%	150	7.32	206	10.06
U-12	9.95	49	4.92	-45	52%	94	9.45	176	17.69
U-13	12.43	88	7.08	-33	73%	121	9.73	108	8.69
ルサー相泊地区 (広義) 計	22.38	137	6.12	-78	64%	215	9.61	284	12.69
U-04	11.45	98	8.56	+15	118%	83	7.25	597	52.14
U-05	11.54	99	8.58	-6	94%	105	9.1	384	33.28
U-06	9.51	95	9.99	-31	75%	126	13.25	322	33.86
幌別-岩尾別地区 (広義) 計	32.5	292	8.98	-22	93%	314	9.66	1303	40.09

調査区	面積 (km ²)	2014年調査				2013年調査		2011年調査	
		発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)	2011年比		発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)	発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)
U-2	11.07	50	4.50	-285	15%	No Data		335	30.26
U-3	10.97	177	16.11	-102	63%	No Data		279	25.43
ルシヤ地区 (広義) 計	22.04	227	10.28	-387	37%	No Data		614	27.86

2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）

<ルサー相泊地区>

- ・2009年以降、春と秋に各時期5日間集中で、道路沿いの10.2 km 区間で調査。
 - ・今春は4/29～5/4の5日間に調査し、発見頭数64頭、密度指標値6.3頭/km、100メス比10.2であった（いずれも5回分の平均値）。
- 発見頭数の最大値は67頭。
- ・調査区間の中間～後半（熊岩～相泊）における発見数が比較的多かった。

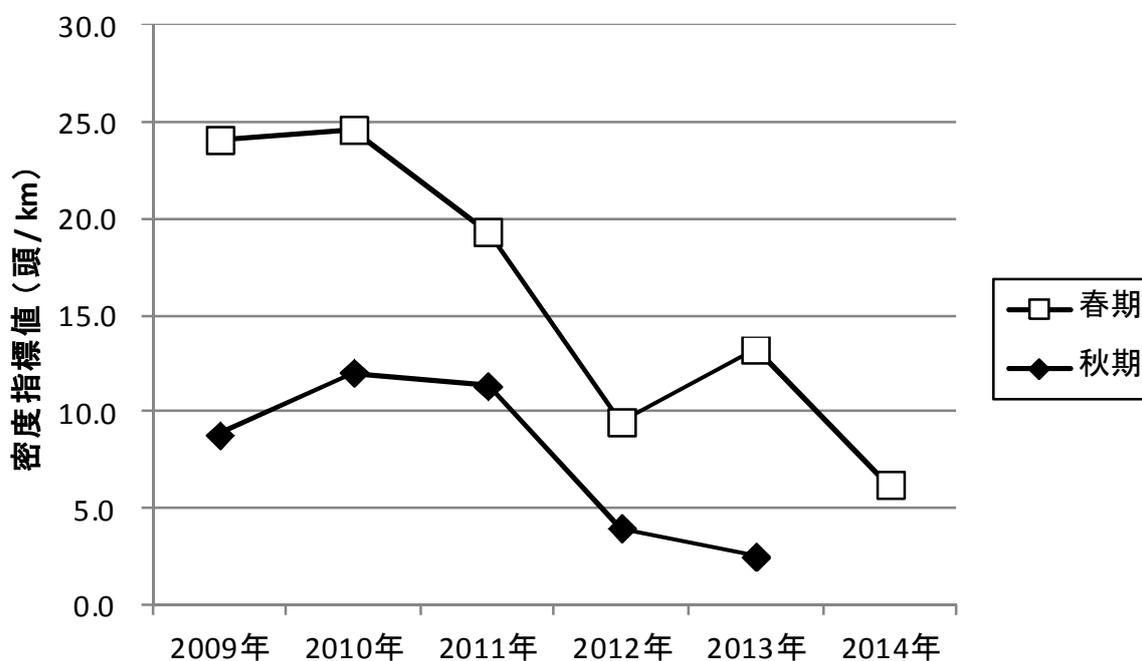


図 1-4-4. ルサー相泊地区のライトセンサス結果（H20～25 シカ年度，各5回分の平均値）

※実際の発見頭数は密度指標値の約10倍

※同地区ではH21（2009）シカ年度からエゾシカの捕獲手法検討、H24シカ年度から密度操作実験が実施され、これまでに計621頭（うちメス成獣314頭）が捕獲されている。

<幌別-岩尾別地区>

- ・1980年代末より春と秋に継続して複数回、幌別コース（調査距離 4.9 km）および岩尾別コース（同 4.5 km）の2コースで実施。
- ・2014年春（4/23～27）は、幌別コースで前年より増加、岩尾別コースで減少。最大発見頭数は幌別 98頭、岩尾別 26頭。密度指標値（平均）は幌別 15.3頭/km、岩尾別 3.5頭/km（図 1-4-5）。100メス比は幌別 17.3、岩尾別 13.3と前年（4.1および 1.0）より大幅上昇。
- ・定住型のシカが春より多いと推測される秋の発見頭数は、近年減少傾向。

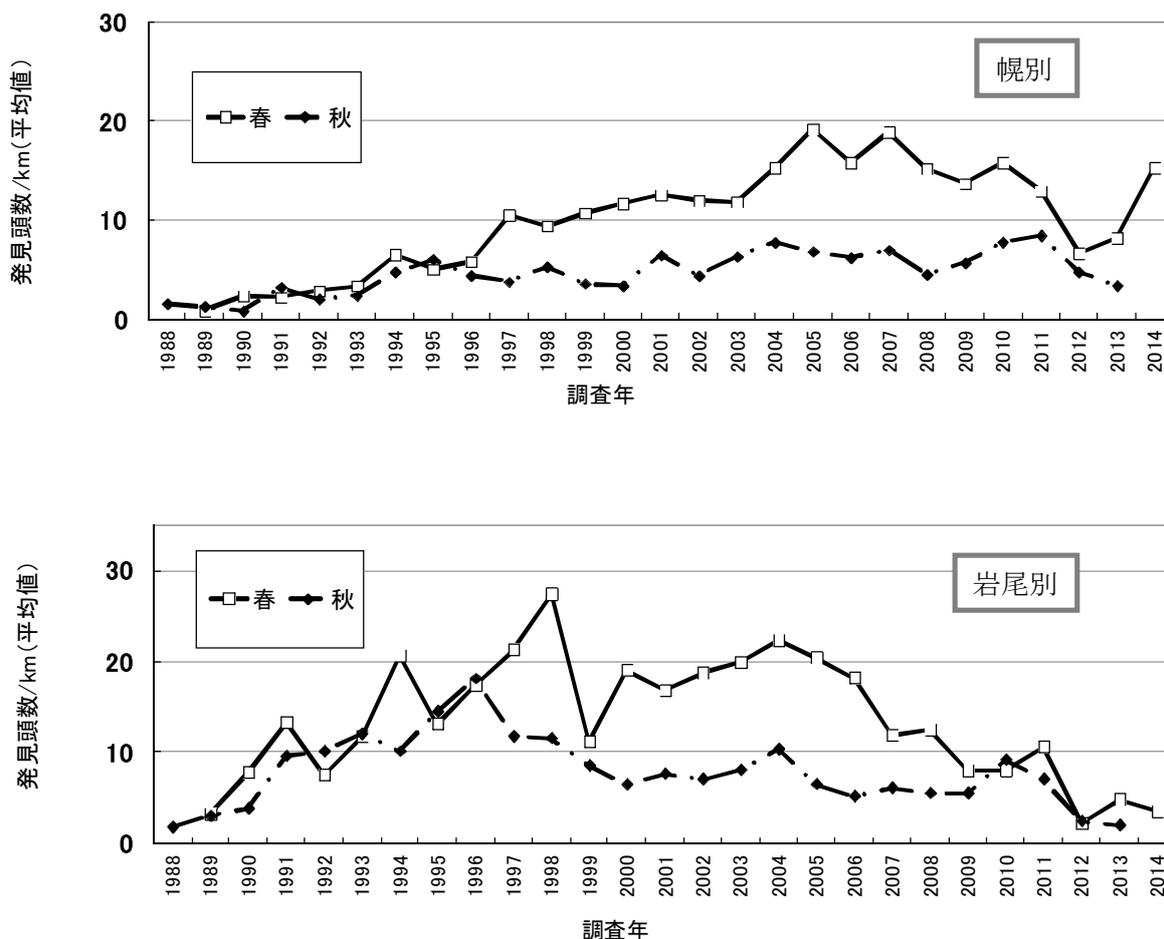


図 1-4-5. 幌別-岩尾別地区のスポットライトセンサス結果（春 1989～2014，秋 1988～2013）

3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

- ・斜里町側隣接地区の三段の滝（オショコマナイ川）～オチカバケ川の国道 334 号沿い、延長約 12 km において、越冬期のエゾシカの日中カウント調査を 2008 年 1 月（H19 シカ年度）より実施。
- ・国指定鳥獣保護区内の区間（三段の滝～オペケプ川）が約 4 km、鳥獣保護区外（オペケプ川～オチカバケ川）が約 8 km である。
- ・冬期の午後に国道沿い斜面等にいるエゾシカを低速で走行する車内よりカウント。
- ・2014 年の最大発見頭数は 472 頭（3 月 12 日）。密度指標値は 39.3 頭/km。
- ・国指定鳥獣保護区内における発見頭数が増加傾向。

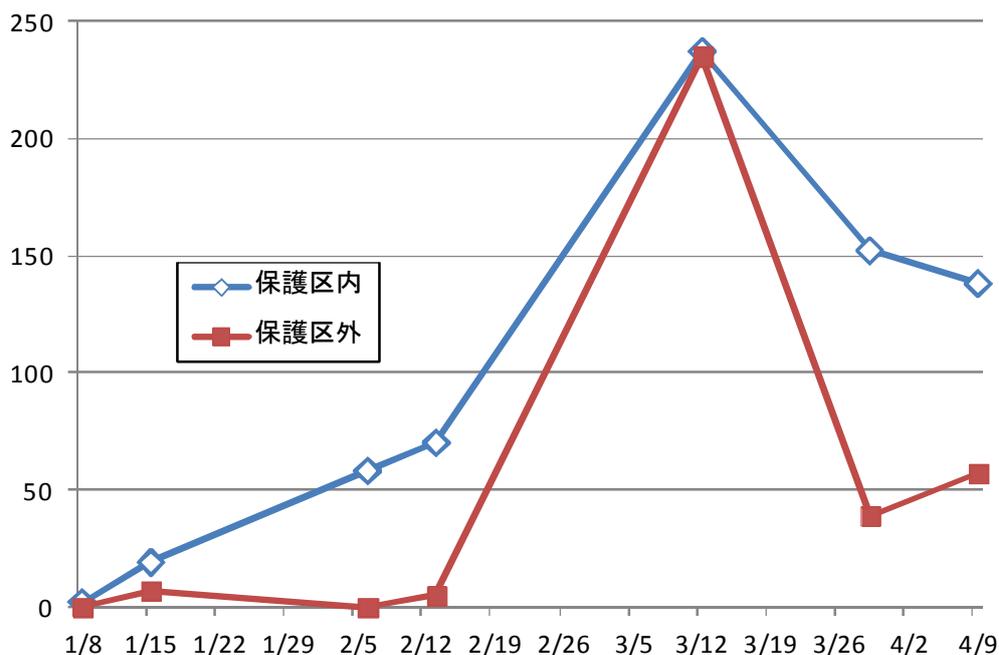


図 1-4-6. オシンコシン～真鯉地区におけるエゾシカの日中カウント結果（2014 年）

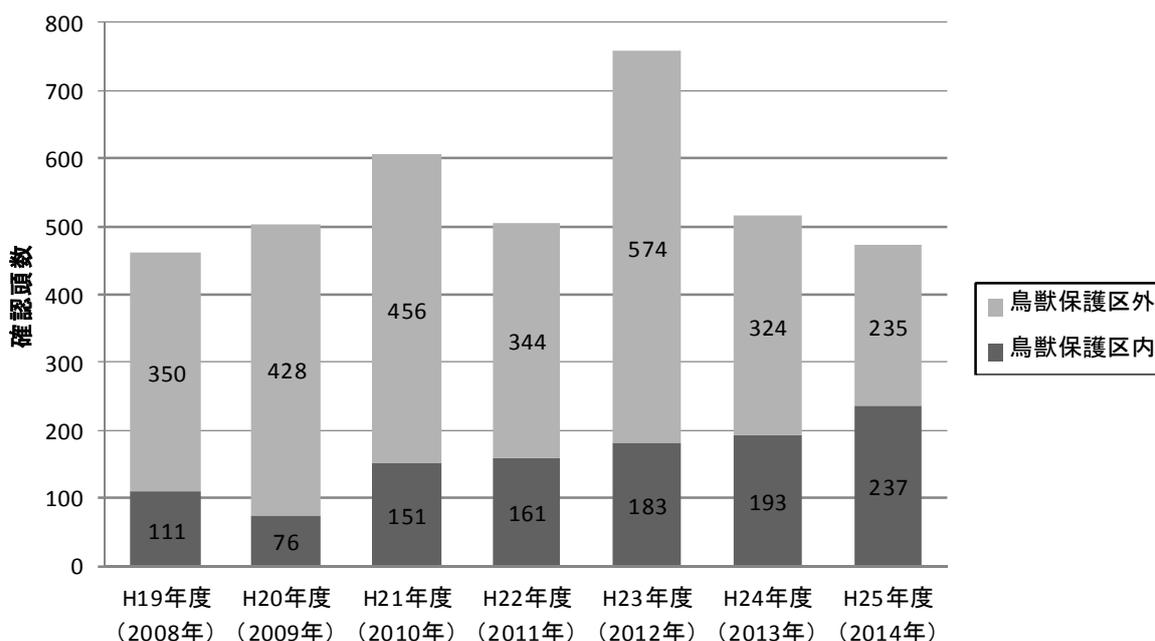


図 1-4-7. 日中カウントにおける年別最大発見頭数の年次推移（H19～25 シカ年度）
（X 軸の「年度」はシカ年度を示している）